

上半期 事業報告

就労継続支援B型・生活介護事業 あじさい園

あじさい園 ※利用定員 35 人/日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	74.4%	74%	74.3%	69.7%	68.6%	70.3%

1. 現状

新型コロナウイルス感染症の影響もあり利用率は減少傾向にあった。そうした状況は収支にも大きく影響を及ぼす結果となり、今後の経営・運営には課題を残す結果となった。就労支援事業では新たな委託事業や記念品受注などもあったが、長引くコロナの影響により厳しい収支状況であった。新型コロナウイルス感染拡大による影響により、7月には事業を2日間臨時休業した。また、職員の確保にも苦慮した半年間であった。

2. 課題

持続可能な経営・運営体制の確立には様々な視点から運営及び業務のプロセスを見直し検討して必要がある。設備・備品の老朽化に伴う不具合も発生しているため、計画的かつ状況に応じた迅速な対応が求められる。

就労継続支援B型・生活介護事業 ひより舎

ひより舎 ※利用定員 20 人/日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	76.3%	72.4%	75.2%	83.3%	75%	77.3%

1. 現状

稼働率や収支状況については前年同月と比較しても大きな増減はなくほぼ横ばい状態であった。就労支援事業についても大きな変化は見られないが、数字的にはやや物足りない結果であった。

2. 課題

就労支援事業全体の収入の増加と維持、拡大など取り組むべき課題は多い。一方で利用者の高齢化・重度化に対応できる体制づくりの構築も急がれる。

下半期に向けて

持続可能な経営・運営体制の構築に向け効果的な改善を進めていく。次年度に向けて課題の整理を進め、具体的かつ実現可能な計画と方針を打ち出していく。各現場ではチームワークの向上に働きかけ、職員一人ひとりがやりがとプロとしての誇りを高めていけるよう人材の育成を進めていく。また関係機関との連携を一層強化してサービスの質の向上に努めていく。

新型コロナウイルス感染症への影響と対応

1. 影響

新型コロナウイルス感染症第7波の感染急拡大に伴い、各事業所からも利用者や職員の感染及び濃厚接触が多数確認された。現場は人員の調整や関係機関とのやり取りなどの対応に追われ、とても慌ただしい状況であった。また職員は日々コロナ感染という大きなリスクと向かい合い、精神的にも負担がかかる状況にあった。

2. 対応

新型コロナウイルス感染症の第8波が懸念される状況だが、各事業所では「持ち込まない・拡げない・持ち出さない」を基本とする標準予防策を一層徹底していく。また、これまでの経験を活かしながら、正確に状況を判断し冷静に対応していくことが重要である。